

# 市長不信任案否決で市政は異常事態に 9月議会冒頭から波乱

2日から9月議会がはじまりました。既報のように、冒頭に、学歴差別発言など不適切な発言を繰り返す中川市長の不信任案が提案されました。

決議案を提案した滝沢一成議員は、「上越市は地域医療の再編、13区の存続の危機など課題は山積している。いま立ち止まり、根本問題に向かわなければならない。これではいけないと思った時には黙っていないで、声を上げていくのが私たちの姿でなければならない」などと訴えました。

討論には4人が登壇しました。トップバッターはベテランの本城議員でした。本城議員は、私の隣の席です。始まる前に、「市長は震災対策などで重要な1月に、ある新年会でカラオケを歌っていた。そういう話をしてもいいもんかね」と訊いてこられました。「そりゃ、いいですこて」と答えましたが、その話を市長としての資質のなさ、危機管理意識の薄さを浮き彫りにする事例として引用されました。この話を初めて聴いた人たちは驚いていました。

2番目は宮越議員。長い時間を使って「市民へのリスペクトがない」「政治家として大事なことは約束を守ることだが、私との選挙の時の約束は守らない」「ビジョンがない。ないから語れない。リーダーシップに欠ける」などとのべ、賛成理由としました。

3番目は日本共産党議員団の平良木議員です。同議員は、8月23日に市長が議

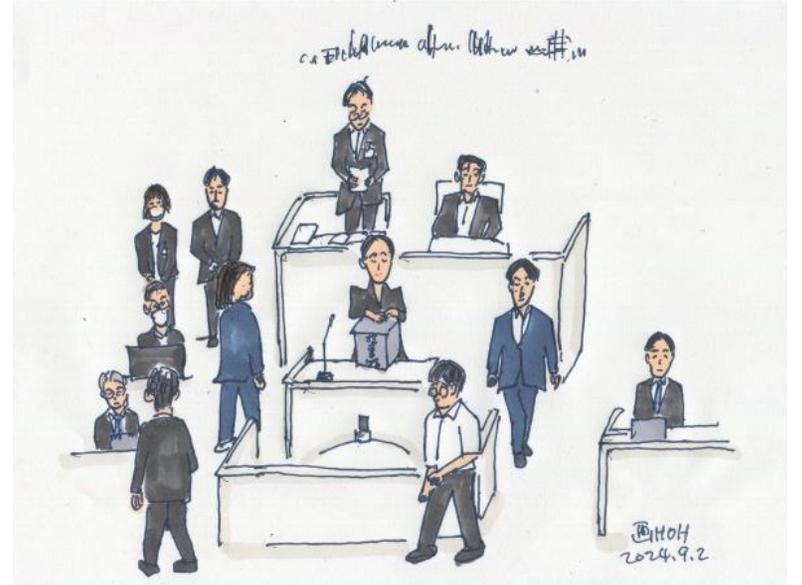
会に示した文書について、「不適切発言の心の字もないし、そのことに関する反省の弁はまったく見当たらない」「多くの市民の声は無視して、自分に都合のよい一部の方々の声に応えて、どこまでも市長の椅子にしがみつくものだ」「最後の3行で、"(先の臨時議会で示した市長給料カット分は)公職の候補者でな

くなった際に対応する、などとしているが、これは、将来の仮定の話であるとともに、少なくともそこに書かれたことが確実に行われるという保証がどこにもない。まったく意味のない文言だ」としました。そして、「市民の信頼を失う発言を繰り返し、そのことを指摘して反省を求めた議会に対しては開き直るという市長では、市民の暮らしを守れないばかりか、市民の利益を限りなく失わせることになることは明白だ」とのべました。

4番目は安田議員です。急遽手を上げて討論を求めましたが、すでに原稿を用意してありました。決議案に反対の立場で発言すると前置きしたので、反対理由として何をあげるのか注目しました。

同議員は、「私も辞職勧告決議には賛成したので今回の不信任案も当初は賛成と考えていた。市民の皆さんの意見を聴き、議員で議論する中でいま可決すべきでないという考えに至った」「市長が議会を解散して選挙になり、その後また市長選挙にまでなれば、当初予定していない公的な費用が多くかかる。そのような市政の停滞、多大な費用負担の可能性があることを決めていいのか」とのべました。そしてさらに、「私は解散されて、市議選をやりたくないというのではない。可決して選挙になっても停滞、このまま市長やられても停滞。どちらも問題であり、早く打破しなければならない」と述べたのです。

このまま続投されては市政が停滞するから、市の信用を低下させマイナスにな



るから7月の臨時議会で辞職勧告決議をしたのではありませんか。続投を選択して、市の信用を取り戻し、市民生活を守って安定させる方策があるのでしょうか。停滞から抜け出す唯一の道は中川市長の辞職しかなかったのです。

しかし、各議員の賛成、反対の意思がわからない無記名投票で採決した結果、不信任に賛成した議員は11人、反対は21人となり、否決されました。

この結果、中川市政は

続くことになりました。不信任決議案に賛成した議員は言うまでもありませんが、反対した議員もほとんどが中川市長を守ろうという思いはなく、市政はまさに異常事態に突入しました。



【オトコエシ】(再掲)オミナエシ科の多年草。漢字で「男 郎花」と書きます。草丈は60㍍～100㍍。葉は対生です。夏から秋にかけて草むらに白い小さな花をたくさん咲かせると目立ちます。花期は8月から10月。花言葉は「野性味」「慎重」「賢明」。写真は9月2日、吉川区代石にて撮影。



あぜ道でエサを食べ歩くコウノトリの夫婦。3日、吉川区小苗代にて。

## はしづめ法一の 活動レポート

No.2170 2024.9.8

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

